

「こ～じのう掲示板」3回/年を継続発行

高次脳機能障害者支援パンフレット作成：

①「高次脳機能障害ってなあに？」：県内医療機関へのアンケート実施後平成18年度作成

②「高次脳機能障害—明日の一步のために＊支援ガイド」：当事者・家族と共同で掲載可能福祉事業所への訪問インタビュー後平成20年度作成

コーディネーター会議主催：実績統計を取るためのフォーマットを作り、記載基準の確認作業

当センターを利用の高次脳機能障害者生活実態調査を、平成18年度および平成20年度実施

当事者・家族の交流会開催：全体交流会1回/年、計3回実施(これまでに通算7回実施)小児は平成17年度から2回/年実施。

損保助成の講習会で高次脳関係を開催。

平成18年度(2007年2月10日：224名参加)記念講演「高次脳機能障害—障害像と試演の課題」大橋正洋氏(神奈リハ支援センター長)

シンポジウム「高次脳機能障害：発症から地域での自立生活までの連続した支援を！」

平成19年度(2008年2月2日：191名参加)基調講演「高次脳機能障害者を支援する人の端総べき役割」白山靖彦氏(静岡英和学院大学人間社会学部准教授)

シンポジウム「支援ネットワーク構築の現状と課題～生活を支える身近な行政・福祉・医療の連携～」

平成20年度(2008年12月14日：205名参加)「脳外傷の社会的行動障害に焦点を当てながら」丸石正治氏(広島県立障害者リハビリテーションセンター)

65歳以上の高齢頭部外傷者の実態調査：全国都道府県医療機関のある36支援拠点機関へのアンケート調査実施。25機関から回答(交通事故による高次脳機能障害等研究委員会「高齢者頭部外傷における高次脳機能障害」研究への協力事業)

#### 市町村相談支援班

事業内容：平成18年度は24市町村29ヶ所の窓口及び地域生活支援の相談事業者等への訪問。これをもって全県すべての市町村窓口への広報活動としての訪問は終了。

平成19年度は13市町村33窓口および地域生活支援に関わる13相談事業所への訪問

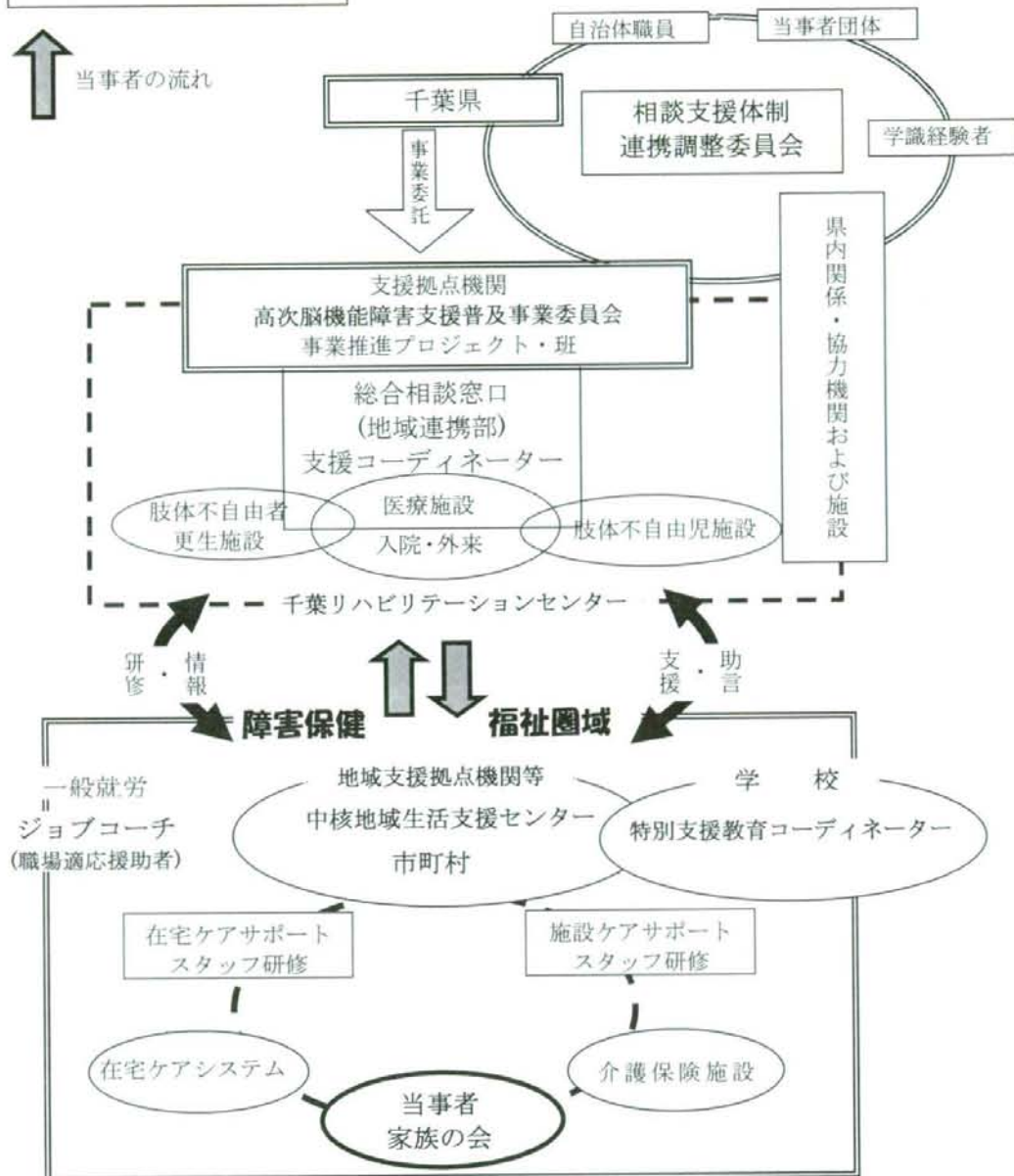
市町村職員対象の研修(障害者中央相談センター主催)に高次脳機能障害支援事業関連の講義を組み込む：平成21年2月9日開催(県内45市町村から67名参加)

市町村行政窓口からの依頼に応じて職員派遣(平成18年度1ヶ所20年度3市町村)

地域生活支援事業者と共同の定例症例検討会(平成18年度1事業者平成20年度3事業所)

その他各プロジェクト・班による事業を実施してきた。

図1 事業展開イメージ図



## 部門別集計表: 団体対応

	日付	会・講義等の名称	発表題名	発表者名	
講演・シンポジウム	平成18年度	6月 障害児(者)地域療育支援事業コーディネーター研修会	高次脳機能障害支援について	佐原美千代	
	8月	千葉県立袖ヶ浦養護学校校内研修会	高次脳機能障害支援について	佐原美千代	
	9月	大網白里町立増穂小学校	高次脳機能障害について(概要と学習支援について)	廣瀬 綾奈	
	2月	第3回高次脳機能障害リハビリテーション講習会	高次脳機能障害支援普及事業への取り組み	大賀 優	
	平成19年度	5月13日	千葉県言語聴覚士会	高次脳機能障害モデル事業からまなぶこと ー理論と実践からー	大賀 優
	6月11日	千葉県障害者中央相談センター障害者福祉研修会	市町村担当職員研修「高次脳機能障害者の支援につ	佐原美千代	
	6月24日	高次脳機能障害者と家族の会「東葛葉の花」定例会	高次脳機能障害者へ広がる地域支援の輪へ	江口 裕通	
	7月19日	東京都心身障害者福祉センター	高次脳機能障害者の職業的課題 ー千葉県での取り組みから見えてくることー	森戸 崇行	
	9月9日	独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」 助成事業:「栃木県障害福祉計画(第一期計画)」にある 「高次脳機能障害者支援センター(仮称)」の設立をめざ して:高次脳機能障害を考えるつどいとちぎでの家族 会・県若者会づくりと社会的自立支援をめざして 柏市	高次脳機能障害者の地域支援	太田 令子	
	10月13日		高次脳機能障害に対するリハビリや支援について	大賀 優	
	10月28日	広島県高次脳機能センター	ー注意障害を中心にー	太田令子	
	11月19日	船橋訪問介護事業所「りんかむ」主催研修会	千葉県での取り組みから		
	12月1日	高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に 関する研究ー東北ブロック講演会	高次脳機能障害を知るう 小児の高次脳機能障害について	佐原美千代	
	平成20年度	6月10日	千葉県育成会	「高次脳機能障害ってなあに」	江口 裕通
6月15日	船橋市介護福祉士会	「高次脳機能障害ってなあに」	江口 裕通		
6月22日	高次脳機能障害者と家族の会「東葛葉の花」創会	発達障害と高次脳機能障害の特徴について	太田 令子		
6月24日	障害者職業総合センター	千葉リハビリテーションセンターにおける高次脳機 能障害支援普及事業の取り組み	太田 令子		
8月24日	岡山リハビリテーション講習会(損保助成)	高次脳機能障害を知る	森戸 崇行		
9月13日	平成20年度職業リハビリテーション実践セミナー(第1回)	シンポジウム「迷路の中の子どもたち ー子どもの高次脳機能障害の今と未来ー」	森戸 崇行		
9月16日	高次脳千葉懇話会	高機能自閉症と高次脳機能障害の理解と支援について	太田令子		
9月28日	静岡高次脳機能障害リハビリテーション講習会(損保助成)	高次脳機能障害の理解と対応について	太田令子		
10月1日	旭神内科リハビリテーション病院内研修	ー認知症理解の手がかりとしてー	太田令子		
10月30日	八千代医療センター	高次脳機能障害の理解と対応について	太田令子		
11月24日	主催:NPO法人日本脳外傷友の会 共催:後天性脳損傷の子どもをもつ家族の会[アトムの会] 高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会 ハイリハネッズ 柏市平成20年度高次脳機能障害講演会	障害特性と職業的課題III 身体障害と高次脳機能障害 千葉県の小児に対する高次脳機能障害支援普及事業 の取り組みと見えてきた課題	太田令子		
11月29日		高次脳機能障害コース	太田令子		
12月6日	医療法人へいあん 平安病院	就業支援における連携II	大塚恵美子		
2月9日	千葉県障害者中央相談センター障害者福祉研修会	当センターでの高次脳機能障害者の神経心理学的検査の 結果についてーWAIS-R・WAIS IIIと他の検査との関係	太田令子		
2月17日	障害者職業総合センター	高次脳機能障害者の地域生活支援	太田令子		
2月20日	高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会 平成20年度公開シンポジウム	当センターにおける高次脳グループ訓練	大塚恵美子		
2月22日	主催:NPO法人生活クラブ・ボランティア活動情報センター 共催:千葉県	高次脳機能障害支援普及事業について	太田令子		
6月	第43回日本リハビリテーション医学会学術集会	後天性脳損傷の子どもを支援するシンポジウムー支援 コーディネーターの立場からー	太田令子		
7月	第10回Waterfront Neurosurgical Conference	高次脳機能障害を考える ー地域で支える仕組みー	太田令子		
9月	第11回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会	「小児の高次脳機能障害の理解と支援 ー発達障害 等との関係で就学支援を考えるー」	太田令子		
10月	リハビリテーション・ケア合同研究会 青森2006	市町村担当職員研修「高次脳機能障害者の支援につ 障害特性と職業的課題III 身体障害と高次脳機能障害 シンポI 若年高次脳機能障害者と就学「成人対小児 発達障害対高次脳機能障害」	佐原美千代		
10月	第65回社団法人日本脳神経外科学会総会	「小児支援の課題」	太田令子		
11月	身体障害者リハビリテーション研究集会2006	高次脳機能障害者のボランティア活動を紐とくーそ こから見えてくることは?ー高次脳機能障害とボ ランティア活動ー障害理解から支援の意味の理解へ	大塚恵美子		
11月	第30回日本高次脳機能障害学会	支援モデル事業開始以後の当施設における高次脳機能 障害症例の検討:拠点機関からの報告	大賀 優他		
		高次脳機能障害者施設巡視実地調査	太田令子他		
		復職困難とされながらも復職を実現した脳卒中後高次脳 機能障害2事例の経験	小倉 由紀 他		
		高次脳機能障害とリハビリテーション:診断から社会復帰 までー支援モデル事業拠点機関からの報告ー	大賀 優他		
		脳底動脈瘤術後脳梗塞により情動変化を呈した辺縁系・ 視床損傷例	掛戸 薫他		
		脳卒中片麻痺例に対するModified CI therapy施行前後 の脳活動動態(fMRI)ー運動関連領域、特に小脳活動の 変化を呈した症例ー	村山 尊司 他		
		両側前頭葉損傷後に両下肢の随意運動と歩行運動が解 離した症例	戸坂 友也 石原 未来 他		
		高次脳機能障害者の離棟離院に対する積極的受け入れ 施設の問題意識と取り組みの実例 ー全職員アンケート 調査結果を踏まえてー	大賀 優他		
		急性期医療終了後の頭部外傷後高次脳機能障害症例の 動向:後方支援機関からの報告と提言	大賀 優他		
		新規規券に結びついた高次脳機能障害を呈した養護学 校卒業生に対する支援	佐藤 恵子		
		高次脳機能障害者のための地域生活復帰支援プログラ ム(3)	大塚恵美子 他		
		動体視力トレーニングソフトの高次脳機能改善効果につ いて:神経心理学的評価・NIRSを用いた予備的検討	大賀 優他		



学会・雑誌等	平成19年度	3月	第30回日本神経外傷学会	高次脳機能障害者のための地域生活復帰プログラムへ家族の集い 急性期医療終了時に看過され、治療・支援の断絶した高次脳機能障害者34例の検討	小滝みや子 他 大賀 優他	
		4月	リハビリテーション医学VOL.43NO.4	小児認知機能の発達的变化—小児における高次脳機能評価法の予備的検討— 「就学支援」	佐原美千代 他 太田 令子 他 揚戸 薫他	
		6月	「高次脳機能障害支援コーディネーターマニュアル」高次脳機能障害支援コーディネーター研究会編 脳科学とリハビリテーション 第7巻	両側視床・右辺縁系病変により著大な情動障害を呈した一症例	大賀 優他	
		3月	第35回日本小児神経外科学会	急性期医療終了後の小児頭部外傷後高次脳機能障害22例の動向：後方支援機関からの報告	大賀 優他	
	平成20年度	11月22～23日	6月6～8日	第44回リハビリテーション医学会	外傷性脳損傷後高次脳機能障害におけるスクリーニングテストとしてのRBANSの有用性 当センター退院後の高次脳機能障害者生活実態調査報告	大賀 優他 太田 令子 他
			6月11日	41th ISPRM in Korea 第31回日本高次脳機能障害学会	脳外傷児のWMS-RとWISC-IIIの検討 Eye-movement/judgement training by PC software may improve higher cognitive function: Preliminary study by Neuropsychological and NIRS evaluation 小児の高次脳機能障害と支援	佐原美千代 他 大賀 優他
		12月4日	12月14日	職業リハビリテーション研究発表会	脳血管障害に起因する成人右利き交叉性失語症6症例の検討-Martenらの主張を巡って 風景を手がかりとした言語メモが移動場面で奏功した道順障害例 小児高次脳機能障害に対する病種用アセスメントシートの試用	大賀 優他 揚戸 薫他 伊藤 正子
				リハビリテーションちば看護研究会	脳体視力トレーニングソフトの高次脳機能改善効果について、神経心理学的評価・NIRSを用いた予備的検討 「受傷後長期経過した外傷性脳損傷患者へのメール送信訓練を活用した記憶の補償手段の導入」 高次脳機能障害を有する二分育権者への就労支援	大賀 優他 太塚恵美子 他 小倉 由紀 他
		11月19～20日	3月15日	平成19年 国リハ研究紀要	高次脳機能障害を注する患者への支援の現状と課題 社会復帰への支援～肢体不自由者更生施設の取り組み 特集「千葉県千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害者への支援の現状と課題」	小倉 由紀 他 太田 令子
				第32回 高次脳機能障害学会	脳腫瘍後に重篤な記憶障害を呈しながら過去を振り返る作業を通して不安傾向が改善した一症例 高次脳機能障害患者のアウトプット障害の程度と心理的ディストレスの関連について 体幹部の人格化を認めた右頭頂葉出血例 当センターでの高次脳機能障害の神経心理学的検査の結果について～WAIS-R・WAISIIIと他の検査との関係 「失語のある子どもたちの復学に関する検討」	稲月幸子他 鎌田かおり 他 川上貴弘他 太塚恵美子 他 廣瀬経奈他

厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業  
分担研究 平成18年度～平成20年度総合報告書(岐阜県)  
「高次脳機能障害者に対する支援ネットワークの構築に関する研究」  
(H18-こころ-一般-008)

分担研究者

社会医療法人厚生会木沢記念病院  
独立行政法人自動車事故対策機構中部療護センター  
岐阜大学大学院医学系研究科脳病態解析学分野(連携)  
篠田 淳

研究要旨

岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築と高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発を目的とし、高次脳機能障害支援普及事業と連動して、支援対策推進委員会の設置・支援コーディネーターによる相談支援・研修会の開催を行った。

A. 研究目的

1. 岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築
2. 高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発

B. 研究方法

岐阜県および岐阜県精神保健福祉センターが高次脳機能障害支援普及事業を実施し、支援拠点機関を岐阜県精神保健福祉センターとする。また、木沢記念病院を支援病院とし、精神保健福祉センターと連携して、相談支援や普及啓発活動を行うこととする。

1. 高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置  
高次脳機能障害者支援の推進を図るため、関係機関や有識者による委員会を設置し、高次脳機能障害の普及啓発および関係機関の連携方策を検討する。
2. 支援コーディネーターによる相談支援  
支援コーディネーターが当事者家族や関係機関職員に対して、支援拠点機関・支援病院・小規模作業所において、電話または面接により専門的な見地から相談支援を行う。

3. 普及啓発事業

高次脳機能障害に関する普及啓発のために、医療従事者・保健師・市町村職員・一般県民に向けた研修会や講演会を行う。

C. 研究結果

1. 高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置・開催  
平成19年6月に関係機関や有識者に委員を委嘱し、平成19年9月5日に平成19年度第1回の委員会を開催した。支援ネットワークの構築にあたり、具体的に県内のどの機関が支援機関になりうるか、どのような働きかけが必要かを検討した。平成20年9月3日に新たな委員を加えて平成20年度第1回会議を開催した。第2回会議を平成21年3月9日に開催し、「岐阜県高次脳機能障害支援センター(仮称)」構想について議論し、同構想の実現に向けて、本案を県へ要望することを全会一致で可決した。
2. 支援コーディネーターによる相談支援  
平成18年度、19年度、20年度の支援拠点機関、支援病院等での相談・受診件数を表1に示す。
  - 1) 支援拠点機関・精神保健福祉センターでの相談支援

精神保健福祉センターでは普及事業に関わる担当職員を平成19年度から1人増員し、事業関連の業務に当たるとともに、センターへの電話相談に対応した。また、支援病院との連携も行った。

#### ① 精神保健福祉センターへの電話相談

相談があった際には必要に応じて支援コーディネーターの相談日を案内し、センターの職員から支援コーディネーターに連絡がなされた。

#### ② 専門相談窓口

支援コーディネーターは支援病院である木沢記念病院に所属しており、毎月1回支援コーディネーターが精神保健福祉センターに向いて相談を受ける日を設けている。支援病院を受診しその後の相談をセンターで行うことにしたケースが多かった。

### 2) 作業所での相談支援

支援コーディネーターの小規模作業所かけはし西岐阜への訪問を本年度も継続した。訪問時には毎回2人の通所者やその家族に個別面談を実施した。個別面談の後は指導員とケース会議を行ったり作業所の状況を聴き取ったりした。また、研修会の一部を当事者が担当し、指導員や当事者と話し合っ準備を行うこともあった。

### 3) 支援病院・木沢記念病院での支援コーディネーターの活動

支援コーディネーターは支援病院において、当事者や関係機関からの電話問い合わせに随時対応する他、脳外科外来への受診の調整をしたり、関係機関との連携を図ったりした。また、ケースによっては予約制で個別面談を行った。加えて、高次脳機能障害の訓練に関わるOT・STと、リハビリ通院しているケースの検討や情報交換を定期的に行った。

表2は平成19年4月から平成21年2月までに支援病院にて主に電話で受けた新規相談ケース数とケースの詳細な情報である。年齢は20代～50代の就業世代のケースが多く、性別では男性、原因疾患は交通事故を始めとする頭部外傷が多い

傾向には変化はみられなかった。

### 3. 普及啓発事業

1) 支援普及事業支援拠点機関・支援病院・岐阜県医師会・日本損害保険協会が主催あるいは助成し、以下の研修会および講演会を開催した(表3)。

平成18年度: 2回、8講演

平成19年度: 5回、10講演

平成20年度: 3回、8講演

#### 2) 普及啓発パンフレットの作成(図1)

高次脳機能障害を県内の行政機関、医療機関、福祉施設等に広く知ってもらうため平成18年度に作成した普及啓発パンフレット「高次脳機能障害の理解のために ～高次脳機能障害とは?～」を平成20年11月に改訂し配布した。

#### 3) 支援実態調査

今後の支援ネットワーク構築に生かすために高次脳機能障害者の県内施設の利用状況の把握する目的で県内福祉施設を対象にアンケート調査を実施した。結果は平成21年度に報告予定。

## D. 健康危険情報

特になし

## E. 研究発表

### 1) 著書

1. 篠田 淳: 高次脳機能障害、運動・感覚障害のアセスメント、脳神経外科看護のアセスメントマスターブック、ブレインナーシング 2007年春季増刊、石山光枝 監、メディカ出版、大阪、2007、pp12-17

2. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: Overview of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized FDG-PET for diffuse axonal injury patients with cognitive impairments. Novel Trends in Brain Science. Brain Imaging, Learning and Memory, Stress and Fear, and Pain. In Onozuka M, Yen CT (ed), Springer, Tokyo, 2008, pp25-35

3. 奥村 歩: 音楽で脳はここまで再生する 一脳の可塑性と認知音楽療法一、人間と歴史社、東京、2008



2) 論文発表他

1. Nakayama N, Okumura A, Shinoda J, Yasokawa Y, Miwa K, Yoshimura S, Iwama T: Evidence for white matter disruption in traumatic brain injury without macroscopic lesions. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 77: 850-855, 2006
2. Nakayama N, Okumura A, Shinoda J, Nakashima T, Iwama T: Relationship between regional cerebral metabolism and consciousness disturbance in traumatic diffuse brain injury without large focal lesions: an FDG-PET study with statistical parametric mapping analysis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 77: 856-862, 2006
3. Ohira H, Nomura M, Ichikawa N, Isowa T, Iidaka T, Sato A, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Association of neural and physiological responses during voluntary emotion suppression. *Neuroimage* 29: 721-733, 2006
4. 奥村 歩, 篠田 淳, 山田實紘, 岩間 亨: MRI 拡散テンソル法を用いた統計学的画像診断システムの開発と「高次脳機能障害」に対する臨床応用. 岐阜県脳医学研究会紀要 2: 31-35, 2006
5. 加藤貴之, 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳, 中山則之, 岩間 亨: 頭部外傷慢性期における脳糖代謝の統計学的画像解析. *神経外傷* 29: 15-19, 2006
6. Yasokawa Y, Shinoda J, Okumura A, Nakayama N, Miwa K, Iwama T: Correlation between diffusion-Tensor magnetic resonance imaging and motor-evoked potential in chronic severe diffuse axonal injury. *J Neurotrauma* 24: 163-173, 2007
7. Nakashima T, Nakayama N, Miwa K, Okumura A, Soeda A, Iwama T: Focal brain glucose hypometabolism in patients with neuropsychologic deficits after diffuse axonal injury. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 28: 236-242, 2007
8. Kato T, Nakayama N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Statistical image analysis of cerebral glucose metabolism in patients with cognitive impairment following diffuse traumatic brain injury. *J Neurotrauma* 24: 919-926, 2007
9. Hashimoto K, Okumura A, Shinoda J, Abo M, Nakamura T: Tensor magnetic resonance imaging in a case of mild traumatic brain injury with lowered verbal intelligence quotient. *J Rehabil Med* 39: 418-420, 2007
10. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Imaging brain and immune association accompanying cognitive appraisal of an acute stressor. *Neuroimage* 39: 500-514, 2007
11. 篠田 淳: 高次脳機能障害について. *メンタルレター* 6: 4-5, 2007
12. 篠田 淳: 平成 18 年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告. 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 -高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究- (H18-こころ-一般-008)」平成 18 年度 総括・分担研究報告書. 2007, pp80-86
13. 奥村 歩, 篠田 淳: FDG-PET. 意識障害の診断と治療 -reappraisal-. *Clinical Neuroscience* 26: 653-655, 2008
14. 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: 拡散テンソル MR 画像を用いた高次脳機能障害の評価. 意識障害の診断と治療 -reappraisal-. *Clinical Neuroscience* 26: 659-661, 2008
15. 松本 淳, 奥村 歩, 篠田 淳: 鍼治療. 意識障害の診断と治療 -reappraisal-. *Clinical Neuroscience* 26: 676-677, 2008
16. Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Miyakoshi M, Kanayama N, Murakami H, Sato S, Konagaya T, Nogimori T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Ohira H: Associations among central nervous, endocrine, and immune activities when positive emotions are elicited by looking at a favorite person. *Brain Behav Immun* 22: 408-417, 2008
17. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Imaging brain and immune association accompanying cognitive appraisal of an acute

- stressor. *Neuroimage* 39: 500-514, 2008
18. 奥村由香, 奥村 歩, 岡 直樹, 豊島義哉, 篠田 淳: 交通事故の頭部外傷による脳機能障害に対する認知音楽療法. *日本音楽療法学会誌* 8: 13-24, 2008
  19. 丸石正治, 上野弘貴, 近藤啓太, 澤田 梢, 橋本優花里, 本間 緑, 荒谷康彦, 道上裕史, 澤近雅之, 村中博幸, 宮谷真人, 中尾 敬, 今泉 敏, 篠田 淳: 高次脳機能障害に対するリハビリテーション評価法: ファンクショナル MRI と拡散テンソル画像を用いて. 広島県立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能センター研究報告書, 2008
  20. 篠田 淳: 平成 19 年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告. 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 - 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究 - (H18-こころ一般-008)」平成 19 年度 総括・分担研究報告書, 2008, pp143-149
- 3) 学会発表他
1. Ohira H, Ichikawa N, Isowa T, Nomura M, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: To Learn is somatic: Brain-body association during stochastic learning. The 12<sup>th</sup> Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. Florence, 2006.6.11-15
  2. Kanazawa T, Konagaya T, Imamura H, Kanayama N, Ohira H, Shinoda J, Fukuyama S, Kaneko H: Effect of psychological stress on rectal hyperalgesia and brain blood flow in patients with irritable bowel syndrome. The 12<sup>th</sup> International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR. Osaka, 2006.7.7-9
  3. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The evidence of neural network disruption in mild cognitive impairment. -MR diffusion tensor imaging study-. The 10<sup>th</sup> International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders. Madrid, 2006.7.15-20
  4. Yasokawa Y, Yano H, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Magnetic resonance diffusion tensor imaging and intraoperative motor evoked potential for brain tumor surgery near the corticospinal tract. The 7<sup>th</sup> Congress of European Association for Neurooncology. Wien, 2006.9.14-17
  5. Okumura A, Shinoda J, Yasokawa Y, Hirata N: Diffusion tensor imaging to evaluate patients in traumatic brain injury without macroscopic lesions. International Session in the 34<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society for Magnetic Resonance in Medicine. Tsukuba, 2006.9.14-16
  6. Okumura A, Shinoda J: The evidence of neural network disruption in mild cognitive impairment-MR diffusion tensor imaging study. International Conference of Geriatric Psychoneuropharmacology (ICGP 2006). Hiroshima, 2006.10.4-5
  7. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Appraisal about controllability of acute stressor and brain-cardiac-immune association. The 8<sup>th</sup> International Congress of Neuroimmunology. Nagoya, 2006.10.15-19
  8. Kanazawa T, Konagaya T, Imamura H, Kanayama N, Ohira H, Shinoda J, Fukuyama S, Kaneko H, Kakumu S: Effect of psychological stress on rectal hyperalgesia and brain blood flow in patients with irritable bowel syndrome. The 14<sup>th</sup> United European Gastroenterology Week. Berlin, 2006.10.21-25
  9. Okumura A, Nakayama N, Kato T, Shinoda J: Relationship between regional cerebral metabolism and cognitive disturbance in patients with chronic-stage diffusion axonal injury: A fluorine-18-fluorodeoxyglucose positron emission tomography (FDG-PET) study. The 9<sup>th</sup> Congress of World Federation of Nuclear Medicine & Biology. Seoul, 2006.10.22-27
  10. Kato T, Nakayama N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J: Correlation of regional cerebral metabolism and general intelligence following traumatic brain injury. The 9<sup>th</sup> Congress of World



- Federation of Nuclear Medicine & Biology. Seoul, 2006.10.22-27
11. Ohira H, Ichikawa N, Isowa T, Nomura M, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Brain activity during reward learning: Simultaneous recording of PET and peripheral physiological activity. The 46<sup>th</sup> Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research, Vancouver, 2006.10.25-29
  12. 加藤貴之, 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通外傷後の脳糖代謝と知能との相関. 第 55 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2006.6.22
  13. 中山則之, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨: び慢性脳損傷による高次脳機能障害と遷延性意識障害の画像. -病態発生機序について-. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  14. 加藤貴之, 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳, 福山誠介, 宇津山志穂, 岩間 亨: 頭部外傷慢性期の知能低下における脳糖代謝統計学的画像解析. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  15. 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 奥村竜児, 辻井知香子, 平林美樹, 西村和好, 中村美津, 石山光枝, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者の随意運動に対する認知的介入としての音楽療法の効果. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  16. 奥村竜児, 奥村 歩, 奥村由香, 福山誠介, 篠田 淳, 野平英樹: 脳外傷認知機能障害に対する脳リハビリテーション Functional mapping. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  17. 豊島義哉, 辻井知香子, 平林美樹, 奥村由香, 中村美津, 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨: 安全で楽しみとしての食事をめざして. -クリスマス会でのスタッフによる劇-. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  18. 小澤慶子, 中村美津, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者へのアロマトリートメントの影響. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  19. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八十川雄図, 中村美津, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  20. 辻井知香子, 豊島義哉, 平林美樹, 奥村由香, 中村美津, 兼松小夜香, 奥村 歩, 八十川雄図, 加藤貴之, 篠田 淳: 受傷から 2 年 5 ヶ月後, 文字による質問に対し YES-NO 反応が可能となった症例. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  21. 吉池佳代, 丹羽志保, 和田哲也, 横林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 当センター作業療法の試み: ポータブルスプリングバランスを用いた上肢機能訓練. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  22. 澤田美由紀, 横林 優, 吉池佳代, 奥村 歩, 篠田 淳: 反り返りに対しボールを用いた理学療法で抑制効果が得られた一例. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  23. 浅野さつき, 中村美津, 石山光枝, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者の膀胱機能調査. 第 15 回日本意識障害学会. 大阪市, 2006.7.13-14
  24. 奥村 歩 (ランチョンセミナー教育講演): 高次脳機能の病態を「見る」SPECT の cZIS 解析. 第 26 回日本核医学技術学会総会学術大会. 福岡市, 2006.7.23
  25. 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 篠田 淳: 交通事故の脳損傷による高次脳機能障害に対する脳リハビリとしての音楽療法の効果. 第 6 回日本音楽療法学会学術大会. 仙台市, 2006.8.25-27
  26. 加藤貴之, 中山則之, 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳: 頭部外傷慢性期の知能低下における脳糖代謝統計学的画像解析. 第 65 回日本脳神経外科学会総会. 京都市, 2006.10.18-20
  27. 中山則之, 岩間 亨, 奥村 歩, 篠田 淳: 高次脳機能障害と遷延性意識障害の病態発生機序について -び慢性脳損傷慢性期患者における検討-. 第 65 回日本脳神経外科学会総会. 京都市, 2006.10.18-20
  28. 中島利彦, 田中嘉隆, 加藤雅康, 服部達明, 奥村 歩, 篠田 淳, 副田明男, 岩間 亨: 頭部外傷後の高次脳機能障害患者には前方帯状回の機能不全が認められる. 第 65 回日本脳神経外科学会総

- 会、京都市、2006.10.18-20
29. 奥村 歩, 八十川雄図, 加藤貴之, 篠田 淳, 山田實紘, 中山則之, 岩間 亨 (シンポジウム): 「脳外傷による高次脳機能障害」に対する MR Diffusion Tensor Imaging と FDG-PET を用いた病態把握. 第 65 回日本脳神経外科学会総会, 京都市, 2006.10.18-20
  30. 豊島義哉, 辻井知香子, 吉田充千穂, 松井愛子, 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 重症脳外傷による重度嚥下障害に対する嚥下造影検査の有用性. 第 56 回岐阜県臨床神経集談会. 岐阜市, 2006.12.6
  31. 篠田 淳 (特別講演): 頭部外傷後に見られる遷延性意識障害・高次脳機能障害の画像診断. 第 3 回東三河運動障害懇話会. 豊橋市, 2007.1.27
  32. 八十川雄図: 慢性期びまん性軸索損傷における diffusion Tensor image と運動誘発電位. 平成 19 年岐阜脳神経外科カンファランス. 岐阜市, 2007.1.28
  33. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: MR 拡散テンソル画像の基礎と臨床応用. 平成 19 年岐阜脳神経外科カンファランス. 岐阜市, 2007.1.28
  34. 篠田 淳 (指定発言): 医療・福祉・当事者の脳損傷リハビリネットワークを目指して. 平成 18 年度岐阜県脳損傷リハビリテーション講習会. 岐阜市, 2007.1.28
  35. 奥村 歩 (特別講演): 脳機能障害の病態を「見る」神経画像. 第 20 回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会. 名古屋市, 2007.2.3
  36. 篠田 淳 (教育講演): 遷延性意識障害と高次脳機能障害. 平成 18 年度岐阜県高次脳機能障害支援研修会. 羽島市, 2007.3.16
  37. 宇津山志穂 (教育講演): 社会復帰支援について. 平成 18 年度岐阜県高次脳機能障害支援研修会. 羽島市, 2007.3.16
  38. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳, 矢野大仁, 岩間 亨: 慢性期重症頭部外傷例に対する髄腔内バクロフェン療法の経験. 第 72 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会. 岐阜市, 2007.4.14
  39. Ohira H, Matsunaga M, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Serotonin transporter gene polymorphism can explain brain and physiological reactivity to acute stress. The 13<sup>th</sup> Annual Meeting on Human Brain Mapping. Chicago, 2007.6.10-14
  40. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳, 矢野大仁, 岩間 亨: 慢性期重症頭部外傷例に対する髄腔内バクロフェン療法の 1 経験. 第 57 回岐阜県臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.6.14
  41. 加藤貴之 (教育講演): 脳機能局在の基礎知識 - 脳 CT, MRI の読み方 -. 平成 19 年度第 1 回岐阜県嚥下障害研究会. 美濃加茂市, 2007.6.23
  42. 奥村 歩 (教育講演): 最新神経画像で見る運動機能. 第 1 回岐阜県脳血管リハビリテーション研究会. 美濃加茂市, 2007.7.28
  43. 奥村竜児, 田中祐樹, 福山誠介, 奥村 歩, 篠田 淳: 脳外傷認知機能障害例に対する脳血流量定量 SPECT 賦活試験を行なった一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  44. 松本 淳, 鈴木雅雄, 奥村竜児, 福山誠介, 兼松由香里, 加藤貴之, 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: 鍼治療による能血流量を Functional SPECT にて測定した重症頭部外傷後遷延性意識障害の 1 例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  45. 奥村 歩, 篠田 淳, 岡 直樹, 加藤貴之, 中島利彦, 中山則之, 岩間 亨: FDG-PET を用いた遷延性意識障害の概念の構築. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  46. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八十川雄図, 西山紀郎, 岡直樹, 加藤貴之, 兼松由香里, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 仙台市, 2007.8.5-6
  47. 岩井香織, 田本織江, 浅野愛子, 和田哲也, 横林優, 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: トラクトグラフィに注目した上肢機能向上を図った一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  48. 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 篠田 淳:



- Vegetative state の残存能力に対する音楽療法の効果. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
49. 丹羽志保, 青木智子, 吉池佳代, 和田哲也, 横林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 随意性の改善に伴い振戦が増加した 1 例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  50. 青木智子, 丹羽志保, 吉池佳代, 和田哲也, 西村 和好, 横林 優, 織田恵理子, 奥村 歩, 篠田 淳: 自己実現の欲求に着目した介入で易怒性が改善した一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  51. 酒向圭介, 横林 優, 豊島義哉, 奥村由香, 奥村 歩, 篠田 淳: 重度筋緊張亢進患者に対する理学療法. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  52. 豊島義哉, 酒向圭介, 奥村由香, 辻井知香子, 平林美樹, 田中秀美, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨: 開口を下顎反射亢進抑制に利用し、徐々に経口摂取が可能となった一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  53. 篠田 淳 (シンポジウム): 中部療護センターの事業紹介. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
  54. 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳: BEAT を用いた functional mapping. 第 13 回東海脳神経核医学研究会. 名古屋市, 2007.8.18
  55. 奥村 歩 (特別講演): 脳と心を画像で見る. 第 1 回精神ニューロイメージング講演会. 京都市, 2007.8.23
  56. Okumura Y, Okumura A, Toyoshima T, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance using ECD-SPECT with brain easy analysis tool (BEAT). The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  57. Toyoshima T, Okumura A, Shinoda J, Yamada J, Iwama T: The clinical utility of videofluoroscopic examination for the swallowing rehabilitation of severe traumatic brain injury. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  58. Okumura A, Oka N, Kato T, Miwa K, Shinoda J, Yamada J: The clinical utility of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized PET to evaluate memory and cognitive impairment. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  59. Kasuya Y, Okumura A, Oka N, Shinoda J, Yamada J: The detection of abnormal neural network after traumatic brain injury using MR diffusion tensor imaging. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  60. Suzuki M, Matsumoto J, Yasokawa YT, Oka N, Nishiyama N, Okumura R, Fukuyama S, Kato T, Kanematsu Y, Okumura A, Shinoda J: Acupuncture as a possible treatment for patients in the vegetative state. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  61. 篠田 淳 (招待講演): 高次脳機能障害について. 2007 年度三重高次脳機能障害者 (児) リハビリテーション講習会. 津市, 2007.12.2
  62. 豊島義哉, 辻井知香子, 平林美樹, 岡 直樹, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 開口を咬反射亢進抑制に利用し、徐々に経口摂取が可能となった 1 例. 第 58 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.12.5
  63. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八十川雄図, 岡 直樹, 西山紀郎, 奥村竜児, 福山誠介, 加藤貴之, 兼松由香里, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通事故頭部外傷に



- よる遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 第58回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.12.5
64. 加藤貴之: Statistical image analysis of cerebral glucose metabolism in patients with cognitive impairment. 平成20年岐阜脳神経外科カンファレンス. 岐阜市, 2008.1.27
65. 篠田 淳 (教育講演): 神経画像から見た高次脳機能障害. 平成19年度岐阜県医師会高次脳機能障害支援対策事業研修会. 岐阜市, 2008.2.16
66. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance. The 1<sup>st</sup> Asian Oceania Conference of Physical and Rehabilitation Medicine. Nanjing, 2008.5.16-19
67. Ohira H, Nomura M, Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Murakami H, Osumi T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Functional association of brain and somatic activities accompanying reverse learning. Human Brain Mapping 2008. Melbourne, 2008.6.15-19
68. Ohira H, Nomura M, Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Murakami H, Osumi T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Functional association of brain and somatic activities accompanying reverse learning. The 48th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research. Austin, 2008.10.1-5
69. Shinoda J (Workshop): Neuroimaging studies and neurorehabilitation at the Chubu Medical Center for Prolonged Traumatic Brain Dysfunction. International Conference of Multidisciplinary Neurotraumatology. Nagoya, 2008.10.30
70. 宇津山志穂 (教育講演): 岐阜県の高次脳機能障害支援対策事業. 平成20年飛騨地区障害者自立支援フォーラム. 高山市, 2008.3.14
71. 渡邊鮎美 (教育講演): 高次脳機能障害についてー障害の概要とこれまでの取り組み課題ー. 平成20年飛騨地区障害者自立支援フォーラム. 高山市, 2008.3.14
72. 篠田 淳 (特別講演): 中部療護センターの事業紹介. 第1回東海地区遷延性意識障害者と家族の会. 結成記念講演会. 名古屋市, 2008.5.18
73. 篠田 淳 (指定発言): 岐阜県における高次脳機能障害者支援状況. 平成20年度第1回高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会および厚生労働科研費「地域支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議. 所沢市, 2008.7.2
74. 岩井香織, 浅野愛子, 和田哲也, 永瀬友美, 楳林優, 岡 直樹, 篠田 淳: 動作遂行困難な症例に対し錐体路トラクトグラフィを評価に用いた一例. 第58回日本病院学会. 山形市, 2008.7.3-4
75. 竹中俊介 (教育講演): 頭部外傷の診断と画像所見. 平成20年度第3回研修医のための岐阜脳神経セミナー. 岐阜市, 2008.7.4
76. 奥村 歩 (特別講演): 脳と心の神経画像. 第3回名古屋 Meet the Specialist. 名古屋市, 2008.7.4
77. 伊藤 毅 (教育講演): 脳機能局在の基礎知識および神経画像の見方. 第4回岐阜県脳障害リハビリテーション研修会. 美濃加茂市, 2008.7.12
78. 蒲 知香子, 豊島義哉, 平林美樹, 奥村由香, 竹中俊介, 伊藤 毅, 奥村 歩, 篠田 淳: 重度頭部外傷による遷延性意識障害離脱後に複数の重度の症状を呈した症例の回復過程. 第17回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
79. 豊島義哉, 蒲 知香子, 青木智子, 西村和好, 吉田充千穂, 平林美樹, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間亨: 重度瀰漫性軸索損傷慢性期における発語障害の1例. 第17回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
80. 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 加藤玲子, 篠田淳: 認知音楽療法ー音楽により認知機能の再ネットワーク化を図るー. 第17回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
81. 加藤玲子, 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 浅野愛子, 小森三代, 伊島泰子, 影山裕子, 篠田 淳: 認知音楽療法による運動機能の改善. 第17回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
82. 奥村 歩 (ランチョンセミナー): 軽度認知障害に対する薬物療法・音楽療法. 第17回日本意識

- 障害学会, 下呂市, 2008.7.18-19
83. 篠田 淳, 奥村 歩, 伊藤 毅, 竹中俊介; 木沢記念病院・中部療護センターで使用している意思疎通グレーディング. 下呂市, 2008.7.18-19
84. 中山則之, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨: 高次脳機能障害診断における神経機能画像の応用について. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
85. 八木雄雄, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 慢性軸索損傷の病態把握における拡散テンソル画像 (Diffusion tensor imaging: DTI) の有用性. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
86. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八木雄雄, 岡 直樹, 西山紀郎, 加藤貴之, 遠山香織, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する減治療の試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
87. 青木智子, 岩井香織, 浅野愛子, 和田哲也, 横林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 手指筋緊張亢進に対する試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
88. 浅野愛子, 和田哲也, 岩井香織, 横林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 重度麻痺症例に対する浮力を用いた重力軽減療法の試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
89. 大塚誠士, 横林 優, 星屋慈実, 澤田美由紀, 岩井 歩, 白木大吾, 篠田 淳, 奥村 歩: 左下腿を切断し, 右足底接地困難な頭部外傷患者に対する義足を用いた両脚荷重訓練の試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
90. 奥村 歩 (基調講演): MRI でみる脳内ネットワーク. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
91. 八木雄雄, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 慢性期重症頭部外傷症例に対するバクロフェン髄注療法の 1 経験. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
92. 篠田 淳 (招待講演): 高次脳機能障害の診断 - 神経画像から見えてきたこと -. 平成 20 年高次脳機能障害講演会大阪. 大阪市, 2008.8.9
93. 篠田 淳 (招待講演): 高次脳機能障害の診断 - 神経画像から見えてきたこと -. 平成 20 年高次脳機能障害講演会愛知. 名古屋市, 2008.9.27
94. 篠田 淳, 奥村 歩, 中山則之, 副田明男, 岩間 亨, 中島利彦, 加藤貴之: 神経画像を用いた頭部外傷後高次脳機能障害の評価. 第 67 回日本神経外科学会総会. 盛岡市, 2008.10.1-3
95. 宇津山志徳 (教育講演): 岐阜県における高次脳機能障害の相談状況について. 平成 20 年度岐阜県高次脳機能障害普及啓発リハビリ担当者向け研修会 2008.12.14
96. 豊島義哉 (教育講演): 就学, 就労, 在宅支援に関わって. 平成 20 年度岐阜高次脳機能障害フォーラム. 岐阜市, 2009.1.31
97. 宇津山志徳 (教育講演): 体験談 - ある当事者の 3 年間 -. 平成 20 年度岐阜高次脳機能障害フォーラム. 岐阜市, 2009.1.31
98. 篠田 淳: (指定発言): 岐阜県における高次脳機能障害者支援 - 平成 20 年度活動報告 -. 平成 20 年度第 2 回高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会および厚生労働科研費「地域支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議. 東京, 2009.2.20
- 4) 新聞報道
1. 「MRI DTI と FDG-PET の統計的画像解析で高次脳機能障害の病態把握が可能に」 平成 19 年 1 月 18 日、Medical Tribune
  2. 「高次脳機能障害に理解を」 平成 20 年 8 月 5 日、大阪日日新聞朝刊
  3. 「高次脳機能障害 - 医療、介護、現場の声 -」 平成 20 年 8 月 10 日、大阪日日新聞朝刊
- 5) テレビ放映
1. 「映像'07 見えない障害 -高次脳機能障害者の苦悩-」 平成 19 年 5 月 13 日、大阪毎日放送
  2. 「高次脳機能障害講演会 - 愛知 -」 プライムタイム. 平成 20 年 9 月 27 日、中京テレビ

表1：支援コーディネーターが受けた高次脳機能障害に関する相談件数

	電話相談		来所相談		
	木沢記念 病院	精神保健 福祉センター	木沢記念 病院	精神保健 福祉センター	かけはし 作業所
平成18年度	139	7	93	15 <sup>※1</sup>	22
平成19年度	157	8	51	25	25
平成20年度 <sup>※2</sup>	125	9	46	15	22

※1 来所相談・精神保健福祉センターはH18.6月開始～H19.3月

※2 平成20年度はH20.4月～H21.2月



表2：木沢記念病院における新規相談ケースの詳細(平成19年4月～平成21年2月)

年齢	15歳以下	4
	16～19歳	6
	20代	11
	30代	10
	40代	14
	50代	13
	60代	3
	70代以上	3
	不明	9
	合計	73
性別	男	46
	女	20
	不明	7
	合計	73
居住地域	中濃	14
	西濃	7
	東濃	6
	岐阜	19
	飛騨	7
	県外	12
	不明	8
	合計	73

原因	頭部外傷	43
	脳血管障害	14
	低酸素脳症	3
	その他	5
	不明	8
	合計	73
受傷から	6ヶ月以内	24
	1年以内	8
	1年以上	33
	不明	1
	合計	73
相談内容	受診や診断	35
	訓練	7
	入院や入所	7
	社会復帰	4
	福祉制度	7
	在宅生活	6
	その他	7
	合計	73
電話元	支援病院内	7
	他病院	31
	公的機関	11
	当事者家族	24
	合計	73

表3：平成18年度～平成20年度実施の研修会・講演会

	主催者（場所）	参加者 人数	開催日	講演
平成18年度岐阜脳 損傷リハビリテー ション講習会	日本損害保険協会 (県民ふれあい会館)	医療福祉 関係者 当事者家族 約150名	H19 1.28	①『高次脳機能障害者と地域ネットワーク』 岐阜医療技術大学保健学部教授 阿部順子 ②『医療・福祉・当事者の脳損傷リハビリネ ットワークを目指して－医療の立場から』 松波総合病院回復期リハ部長 川口雅裕 ③『医療・福祉・当事者の脳損傷リハビリネ ットワークを目指して－福祉行政の立場 から』 岐阜県精神保健福祉センター保険福 祉課長 須田初美 ④『医療・福祉・当事者の脳損傷リハビリネ ットワークを目指して－患者・家族の立場 から』 NPO 法人岐阜脳外傷友の会「長良 川」理事長 西村憲一
平成18年度岐阜県 高次脳機能障害支 援研修会	岐阜県精神保健福 祉センター (羽島市文化センター)	医療福祉 関係者 当事者家族 約200名	H19 3.16	①『岐阜県における高次脳機能障害支援対策 行政説明会』 岐阜県健康福祉部保健医療 課長 田中 剛 ②『医療概論－遷延性意識障害と高次脳機能 障害者』 木沢記念病院副院長/中部療護セ ンター長 篠田 淳 ③『岐阜県における高次脳機能障害者支援 －これまでの取り組みと社会復帰支援につ いて』 木沢記念病院臨床心理士 宇津山 志穂 ④『小規模作業所かけはし西岐阜の活動につ いて』 NPO 法人岐阜脳外傷友の会「長良 川」理事長 西村憲一
平成19年度第一回 高次脳機能障害普 及啓発保健所向け 研修会	岐阜県精神保健 福祉センター (岐阜県福祉農業会館 研修室)	保健師 合計 約30名	H19 10.26	『高次脳機能障害の特性に応じた支援』 岐阜医療技術大学保健学部教授 阿部順子
平成19年度第二回 高次脳機能障害普 及啓発保健所向け 研修会	岐阜県精神保健 福祉センター (土岐市文化プラザ研 修室)		H19 11.2	『高次脳機能障害の特性に応じた支援』 岐阜医療技術大学保健学部教授 阿部順子
平成19年度岐阜高 次脳機能障害フオ ーラム	第1部： 岐阜県精神保健福祉セ ンター 第2部： 日本損害保険協会 (大垣市情報工房)	医療福祉 関係者 当事者家族 約200名	H20 1.26	第1部： ①『高次脳機能障害の診断と評価』 松阪中 央総合病院リハビリテーション科部長 太 田喜久夫 ②『生活支援・在宅ケアの試行から』 名古 屋市総合リハビリテーションセンター生活 支援課 松尾 徳 第2部： ①『高次脳機能障害者どのように対応するか』 東京字形医科大学リハビリテーション医学 講座助教 橋本圭司 ②『当事者作業所の紹介－当事者へのイン タビュー』 木沢記念病院臨床心理士 宇 津山志穂

平成19年度岐阜県医師会高次脳機能障害支援対策事業研修会	岐阜県医師会 (岐阜県医師会館)	医師 看護師 約140名	H20 2.16	①『神経画像から見た高次脳機能障害』 木沢記念病院副院長/中部療護センター長 篠田 淳 ②『脳外傷による高次脳機能障害 -脳外傷による「心の障害」-』 神奈川リハビリテーション病院リハビリテーション局長 大橋正洋
平成19年度飛騨地域障がい者自立支援フォーラム	飛騨地域障害者自立支援推進会議障がい者就労支援ネットワーク HIDA (飛騨総合庁舎)	医療福祉関係者 行政担当者 当事者家族 約100名	H20 3.14	①『岐阜県の高次脳機能障害支援対策事業』 木沢記念病院臨床心理士 宇津山志徳 ②『高次脳機能障害について -障害の概要とこれまでの取り組み課題-』 岐阜県精神保健福祉センター主事 渡邊鮎美
平成20年度高次脳機能障がい普及啓発リハビリ担当者向け研修会	岐阜県精神保健福祉センター (県民ふれあい会館)	リハビリ担当者など 85名	H20 12.14	①『高次脳機能障がいのリハビリテーション』 星城大学リハビリテーション学部講師 藤田高史 ②『岐阜県における高次脳機能障がいの相談状況について』 木沢記念病院臨床心理士 宇津山志徳
平成20年度岐阜高次脳機能障がいフォーラム	第1部: 岐阜県精神保健福祉センター 第2部: 日本損害保険協会 (県民ふれあい会館)	医療福祉関係者 当事者家族 約170名	H21 1.31	第1部 ①『高次脳機能障害の支援ネットワークの形成と三重モデルの紹介』 静岡英和学院大学准教授 白山清彦 ②『就学、就労、在宅支援に関わって』 木沢記念病院言語聴覚士リハビリテーション科課長 豊島義哉 第2部 ①『高次脳機能障害の地域生活を支援する』 -家族として、精神科医として-』 なやクリニック院長/大阪府障害福祉事業団理事長 納谷敦夫 ②『体験談 -ある当事者の3年間- 当事者へのインタビュー映像の公開』 木沢記念病院臨床心理士 宇津山志徳
平成20年度岐阜県医師会高次脳機能障害支援対策事業研修会	岐阜県医師会 (岐阜県医師会館)	医師など 約70名	H21 2.14	①『高次脳機能障害支援の過去と未来』 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院長 中島八十ー ②『岐阜県の高次脳機能障害支援普及事業について -行政的な立場から開業医に向けた説明-』 岐阜県精神保健福祉センター長 丹羽伸也





厚生労働科学研究費 ころの健康科学研究事業  
「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」  
平成 18～20 年度 分担研究実績報告書

分担研究者 太田 喜久夫 三重県厚生連松阪中央総合病院リハビリテーション科・部長

研究要旨：三重県に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために三重県高次脳機能障害支援普及事業を継続し、相談支援体制連携調整委員会会議を 9 回開催した。報告された就労支援帰結成果や研修講演を基に三重県内で支援ネットワーク確立のための活動を行った。

#### A. 研究目的

三重県内に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために必要な情報を発信し共有する。また、東海ブロック内での連携を強め、その成果を基に三重県での高次脳機能障害支援普及事業を強化する。

#### B. 研究方法

高次脳機能障害者の相談支援に対応し、個別性に配慮して最適な訓練や支援が受けられるように支援体制を整備し、その後の帰結結果を検討する。得られた成果をもとに、三重県下での支援ネットワークを強化する。

(倫理面への配慮)

本研究は高次脳機能障害支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、原則として個人情報を取り扱わないのでプライバシーが損なわれたり、不利益を被ることはない。また、アンケート調査については、個人調査が必要なときには調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。対象者の個人情報等に係るプライ

バシーの保護ならびにいかなる不利益も受けないように十分に配慮した。また、個人が特定できないように格別の注意を払った。

#### C. 研究結果

平成 18 年度から 20 年度にかけて、三重県高次脳機能障害支援普及事業における相談件数は電話相談を除き 1,619 件で、新規相談者実数は 243 名であった。継続的相談者数は 220 名であり、合計 463 名に対して生活・就労・就学支援を実施した。また、相談支援体制連絡調整委員会会議を毎年 3 回総計 3 年間で 9 回開催し、本事業での支援状況の情報を共有し、県内の支援組織や各種団体との連携強化について意見交流を行った。啓発・普及活動においては、高次脳機能障害者地域支援セミナーを平成 18 年度 2 回、平成 19 年度 2 回、平成 20 年度 2 回、総計 6 回開催した。また、高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会を平成 18 年度 2 回、平成 19 年度 3 回、平成 20 年度 2 回、総計 7 回開催した。その他、平成 18 年度から毎年東海ブロック連絡協議会が総計 5 回開催され、全ての連絡協議会に参加し、三重県での高次脳機能障害者

に対する生活・就労支援の現状と成果を説明した。特に平成 18 年度には、第 3 回東海ブロック連絡協議会を三重県で開催し、社会行動障害を有する事例検討を通じてブロック内での連携を強化した。さらに、研修・視察の受け入れや学会発表を通じて三重県での高次脳機能障害支援の成果について情報を発信した。

図 1 主催研修会参加人数及び相談件数

	研修会参加数	相談件数
H18 年度	332 人	274 人
H19 年度	553 人	576 人
H20 年度	378 人	769 人
合計	1,263 人	1,619 人

※相談件数＝直接コーディネーターが面接した延べ件数（電話相談除く）

#### D. 健康危険情報

該当事項無し

#### E. 研究発表

##### 著書

- 1) 監修 白山靖彦 必携障がい者(児)ホームヘルプサービス第 2 版 太田喜久夫：高次脳機能障害－主に外傷性脳損傷患者の障害の特徴と対応法 p.145-151, 2006, 日総研出版.
- 2) 共著 障がい者ケアプラン記載事例集たて方かき方すすめ方 鈴木真：高次脳機能障害の事例 p.18-26, 2008. 5 日総研出版.

##### 論文発表

- 1) 太田喜久夫 パネルディスカッション 頭部外傷・高次脳機能障害のリハビリテーションの実学 三重県高次脳機能障害者生

活支援事業の成果と今後の課題－連続したケアにおける支援コーディネーターの役割－. Jpn J Rehabil Med 2007;44 :581-587

##### 学会発表

- 1) 太田喜久夫、傍島康氏、白山靖彦、神田仁、園田 茂：高次脳機能障害者生活支援事業の効果と課題－生活・職能訓練帰結後の連続したケアの構築に向けて 第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2006 年 6 月（東京）
- 2) 太田喜久夫、神田 仁、園田 茂：三重県高次脳機能障害者生活支援事業の成果と今後の課題 一般就労継続における支援コーディネーターの役割について 第 20 回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会 2007 年 2 月（名古屋）
- 3) 太田喜久夫、神田 仁、園田 茂：高次脳機能障害者生活支援事業の効果と課題－生活・職能訓練帰結後の連続したケアの構築に向けて 第 44 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2007 年 6 月（神戸）
- 4) 太田喜久夫、神田 仁、園田 茂：外傷性脳損傷による高次脳機能障害者における CIQ の変化－生活・職能訓練帰結群と相談支援群との比較 第 45 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2008 年 6 月（幕張）